

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																				
ES23C007		自立した個を育てる教育活動の実践(Practice of Career Education)					教職実践コース科目																				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																					
選択	2	1	大学院教育学 研究科	後期		氏名 河野晋也, 古庄一夫, 立川研一 E-mail mori-saizou@oita-u.ac.jp furusyo@oita-u.ac.jp ken-tatsukawa@oita-u.ac.jp 内																					
授業の概要	・自立した個を育てる教育活動に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																										
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標1 教科指導を通じたキャリア教育を行うための実践的知識について深く理解する																											
目標2 自律的な学習者を育て、社会的自立につなげる教科指導を行うための実践的知識について深く理解する																											
目標3 子どもの自己表現・自己理解・自己開発を促す教育活動を行うための実践的知識について深く理解する																											
目標4 学校現場の事例を題材として現状の課題を発見することができる																											
目標5 現状の課題に対する具体的な対応策を立案・検討することができる																											
目標6																											
目標7																											
目標8																											
目標9																											
目標10																											
授業の内容																											
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																											
2 社会的自立を目的とする学校教育の課題に関する講義																											
3 キャリア教育の基本事項に関する講義																											
4 教科指導とキャリア教育の関係に関する講義																											
5 キャリア教育の実践事例の分析演習 - 社会と将来へ視野を広げる授業実践																											
6 キャリア教育の実践事例の分析演習 - 教科の学習と職業をつなぐ授業実践																											
7 キャリア教育の実践事例の分析演習 - 児童期から始まるキャリア教育																											
8 自己理解・他者理解を促す教育活動に関する講義																											
9 コミュニケーション力を育成する教育に関する講義																											
10 自己実現・自己開発を促す教育活動に関する講義																											
11 自己理解・他者理解のための指導事例の分析演習																											
12 コミュニケーション力育成のための指導事例の分析演習																											
13 自己実現・自己開発のための指導事例の分析演習																											
14 社会的自立を促す指導計画の立案																											
15 学習成果の発表と総括																											
ラ ア ク ニ テ ィ グ	A:知識の定着・確認	授業において設定する演習では、ペアワーク、グループワーク、討論など、アクティブラーニングの手法を取り入れ、院生同士の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。										工 夫 そ の 他 の															
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	次時の学習内容に関する予習および事前準備(資料収集、資料・文献精読など)(10~20h)																									
	事後 学修	演習での討議内容を整理し、自己の視点と比較して考察するとともに、自己の学修到達点を明確にする。(10~20h)																									
教科書	特になし。授業中に指示する。																										
参考書	文部科学省『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』教育出版株式会社、2011 文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版株式会社、2011																										
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10															
	複数教員による多面的・総合的評価(課題への取り組み、討論への参加など)	70%																									
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																									
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																										
備考																											
リンク	URL																										

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	古庄一夫 大分県立特別支援学校教員、大分県教育庁指導主事 立川研一 大分県公立中学校教員、大分県教育庁指導主事
実務経験を いかした教 育内容	キャリア教育の実践事例の分析演習